

# **EXPRESSBUILDER**

<b>EXPRESSBUILDER .....</b>	<b>1</b>
1. 概 要 .....	1
2. バージョン 6 へのバージョンアップ .....	1
3. EXPRESSBUILDERの起動 .....	2
4. メニュー .....	3
5. EXPRESSBUILDERの使用例(バージョン 6、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップ) .....	6
6. EXPRESSBUILDERの使用例(バージョン 6、OS標準のインストーラを使ったセットアップ) .....	19
付録.....	28

# EXPRESSBUILDER

## 1. 概要

「EXPRESSBUILDER」を使うと、簡単に OS がインストールできたり、ハードウェアの接続チェックなどができたりします。また、バンドルソフトウェア、ドキュメントについてもこのメディアで提供しています。

EXPRESSBUILDER は、バージョンにより操作などが異なります。本書では、おもにバージョン 6 について説明しています。

なお、本書で使用している画面イメージなどは、出荷時期、バージョンによって変わる可能性があります。

### EXPRESSBUILDER組込みキット

EXPRESSBUILDER Ver6 以降にサポートされた「EXPRESSBUILDER 組込みキット」(オプション)を実装すると、メディアを使わずに POST から直接起動することができます。また、EXPRESSBUILDER で使う各種パラメータファイルの保存先としても活用できます。

## 2. バージョン 6 へのバージョンアップ

2011 年 6 月以降出荷の新モデルにおいて、従来のバージョン 5 に代えてバージョン 6 にバージョンアップしています（モデルによってはバージョンアップしていないものがあります）。

バージョン 6 は、バージョン 5 に比べ、おもに次のような点が強化されています。

- a) EXPRESSBUILDER 組込みキット(内蔵フラッシュメモリ)への対応
- b) 複数の RAID システムおよび論理ドライブ作成機能の追加
- c) ウィザードの強化
- d) Flash FDD への対応

バージョン 6 においては、従来使われていたいくつかの名称が変更となっています。

バージョン 6 で使う名称	旧名称
EXPRESSBUILDER を使ったセットアップ	シームレスセットアップ
OS 標準のインストーラを使ったセットアップ	マニュアルセットアップ
Windows OS パラメータファイルの作成	ExpressPicnic
Starter Pack の適用	システムのアップデート

また、バージョン 6 から、ドキュメントの体系が一部変更となっています。

バージョン 6 で使うドキュメント	該当する従来のドキュメント
ユーザーズガイド	ユーザーズガイド(ハードウェア編)
インストレーションガイド(Windows 編/Linux 編)	ユーザーズガイド(導入編)、ユーザーズガイド(ソフトウェア編)、インストレーションサプリメントガイド
メンテナンスガイド	ユーザーズガイド(運用・保守編)

### **3. EXPRESSBUILDERの起動**

EXPRESSBUILDER は、次のいずれかの方法により起動することができます。

#### **DVD :**

標準添付の「EXPRESSBUILDER」と記載されたメディアから、次の2通りの方法で使うことができます。

- (1) Express5800 シリーズに実装されている光ディスクドライブへ DVD をセットし、再起動します(電源の OFF→ON、または<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押します)。

「4. メニュー」の(1)ブートメニューが起動します。

- (2) Windows が動作している任意のコンピュータへ DVD をセットします。

「4. メニュー」の(4)オートランメニューが起動します。

#### **内蔵フラッシュメモリ :**

バージョン 6 でサポートされた機能です。「N8115-05 EXPRESSBUILDER 組込みキット」が実装されていると、内蔵フラッシュメモリから起動することができます。

POSTにて次のメッセージが表示されているとき、<F3>キーを押します。このとき、光ディスクドライブからメディアを取り出しておいてください。

Press <F2> SETUP, <F3> Internal flash memory, <F4> ROM Utility, <F12> Network

**POSTで「<F3> Internal flash memory」の表示がないときは**、「メンテナンスガイド」の「EXPRESSBUILDERの詳細」に従って、内蔵フラッシュメモリの接続を確認してください。

内蔵フラッシュメモリが起動すると、「4. メニュー」の(1)ブートメニューが現れます。

## 4. メニュー

EXPRESSBUILDER は、画面上のメニューから操作します。

### (1) ブートメニュー

DVD または内蔵フラッシュメモリを起動すると、次のようなメニューが現れます。



キーボードの矢印キー(<↑>、<↓>)で項目を選択し、<Enter>キーで決定してください。

何もキー入力がないと、デフォルトの[Os installation]が選択されます。

[Os installation]を選択すると、Windows PE のソフトウェア使用許諾について確認した後、(2) トップメニューが現れます。

[Tool Menu (Normal mode)]を選択すると、(3) ツールメニューが起動します。画面は、ディスプレイに表示されます。通常はこちらのモードを選択してください。

[Tool Menu (Redirection mode)]を選択すると、BIOS コンソールリダイレクション機能を使用してリモートで操作することができます。なお、メニューの構成、起動できるツールについては、Normal mode と同じです。Redirection mode をサポートしていないモデルは、この項目はありません。

## (2) トップメニュー

(バージョン 6 の画面例)



トップメニューからは、マウスまたはキーボードを使って操作します。

ここから、セットアップ用ウィザードや、ユーティリティを起動することができます。

## (3) ツールメニュー

(バージョン 6 の画面例)

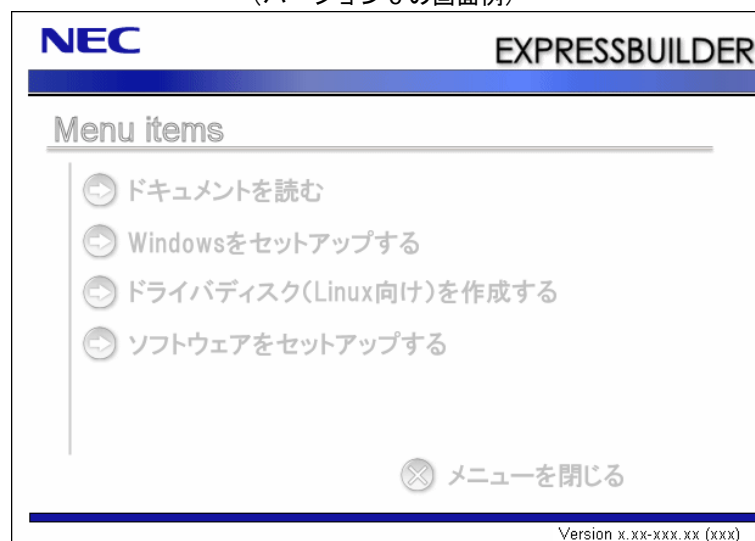


ツールメニューからは、本機の診断と接続チェックをする「システム診断」を起動することができます。

また、バージョン 5 では、「保守ユーティリティ」なども起動することができます（バージョン 6 では、同等の機能は、POST から「<F4> ROM Utility」を起動することで実現できます）。

#### (4) オートランメニュー

(バージョン 6 の画面例)



オートランメニューからは、ドキュメントを読んだり、バンドルソフトウェアのインストールができたりします。ドキュメントは PDF 形式の文書で提供されているため、あらかじめ Adobe システムズ社製の Adobe Reader をインストールしてください。

なお、バージョン 6 では、従来バージョンでサポートしていた「ドライバディスク(Windows 向け)を作成する」機能はありません。ドライバディスクは、(2) トップメニューの「セットアップする」を選択すると、必要に応じて作成されます。

## 5. EXPRESSBUILDERの使用例(バージョン 6、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップ)

EXPRESSBUILDER バージョン 6 を使ってサーバをセットアップしたときの例について説明します。  
ここでは、以下の条件でセットアップすることを想定します。

使用する EXPRESSBUILDER	: Version 6.10-020.01
対象マシン	: Express5800/GT110d-S
ハードディスクドライブ	: 2.5 型 SAS HDD 3 台
RAID コントローラ	: N8103-130
RAID 構成	: RAID5 (ホットスペアなし)
論理ドライブ構成	: 1 台め=100GB 、 2 台め=残り全領域
インストール OS	: Windows Server 2008 R2
インストール先パーティション	: 1 台めの全領域(100GB)
インストール方法	: EXPRESSBUILDER を使う

### Step1 EXPRESSBUILDERの起動

- (1) サーバの電源を ON にし、光ディスクドライブへ EXPRESSBUILDER をセットします。
- (2) <Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押してサーバを再起動し、EXPRESSBUILDER をブートさせます。
- (3) ブートメニューが現れますので、[Os installation]を選択します。
- (4) 言語の選択画面が現れますので、[日本語]を選択します。
- (5) ソフトウェアの仕様許諾画面が現れますので、内容を確認して[はい]を選択します。

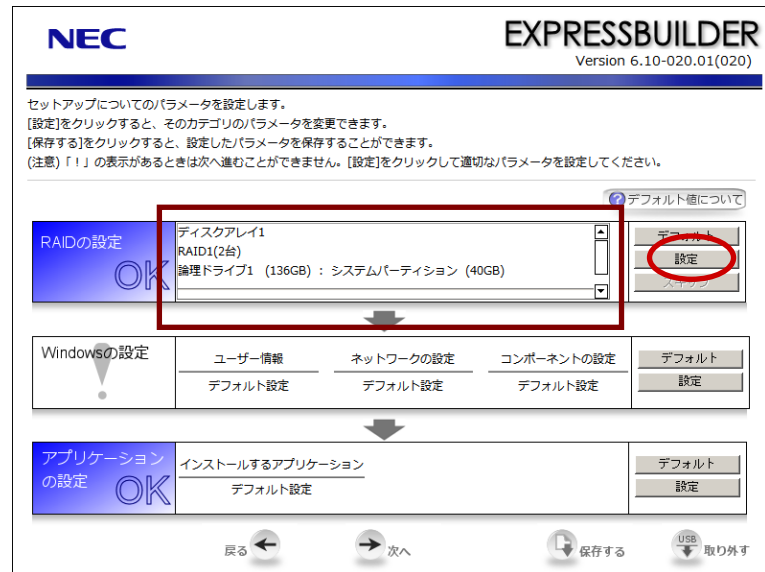
### Step2 RAIDの設定

- (1) トップメニューで、[セットアップする]をチェックし、[次へ]をクリックします。
- (2) 次の画面では、今回インストールする OS(Windows Server 2008 R2)がデフォルトとして設定済みのため、そのまま[次へ]をクリックします。

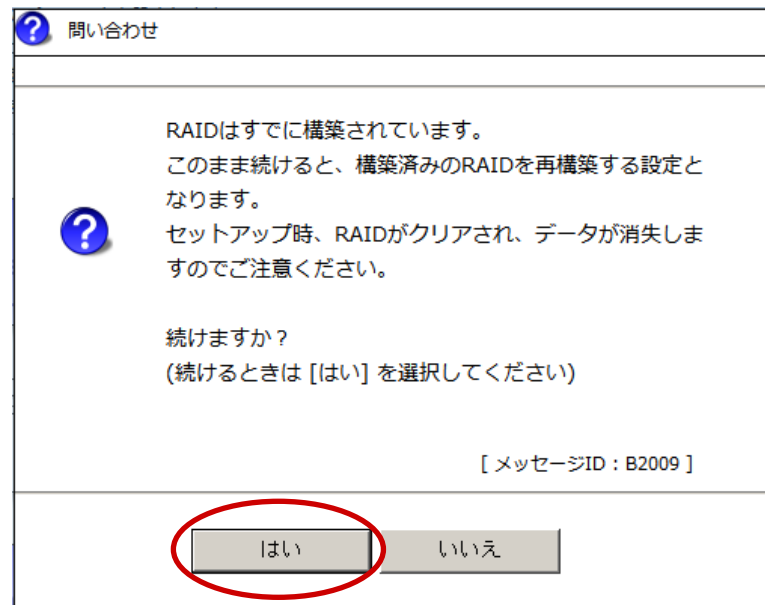




- (3) 次の画面で「RAID の設定」カテゴリを確認すると、RAID1 に設定(デフォルト値)されているため、[設定]をクリックしてウィザードを起動します。



- (4) 確認の画面が現れたときは、[はい]を選択して次に進みます。



(5) [次へ]を選択して次に進みます。

?

ウィザード

次の流れに従って、ディスクアレイおよび論理ドライブを設定します。  
途中、[キャンセル]をクリックすると、それまでの設定を破棄してこのウィザードを終了します。

開始

↓

ディスクアレイの設定

↓

論理ドライブの設定

↓

確認・終了

1 / 5 ページ

次へ

キャンセル

(6) [次へ]を選択して次に進みます。

?

ウィザード

次のRAIDコントローラに対して、ディスクアレイおよび論理ドライブを設定します。  
問題なければ次に進んでください。  
もし、意図しないコントローラが対象になっているときは、ハードウェアの接続状況などを確認してください。

RAIDコントローラ : LSI MegaRAID SAS 9264-8i 

詳細

  
接続されている物理デバイスの台数 : 3

2 / 5 ページ

戻る

次へ

キャンセル

(7) 次の画面では、今回の条件(RAID5、ホットスペアなし)に合致するよう、以下の手順で設定します。

**ウィザード**

ディスクアレイについて設定してください。なお、このウィザードで構成できるディスクアレイは2つまでです。  
物理デバイスをディスクアレイの3番め以降に参加させたいときは、ここでは[未使用]としてください。

物理デバイス	ディスクアレイ#1	ディスクアレイ#2	ホットスペア	未使用
SAS #01 136.2GB	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
SAS #02 136.2GB	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
SAS #03 136.2GB	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

RAIDレベル:

3 / 5 ページ

- ① ディスクアレイ#1 の列にすべての物理デバイスを参加させます。
- ② RAID レベルを RAID5 に変更します。
- ③ [次へ]をクリックします。

(8) 次の画面では、今回の条件(1 台め=100GB 、 2 台め=残り全領域)に合致するよう、以下の手順で設定します。

**ウィザード**

論理ドライブのサイズを指定してください。  
論理ドライブ#1がOSインストール先となり、最大容量は2TB(2048GB)です。  
なお、このウィザードでは、論理ドライブは、各ディスクアレイあたり2つまで作成できます。

ディスクアレイ #1

未使用領域: 0 GB

(論理ドライブ#1): OSインストール先

☒ 最大容量を指定する 272 GB

☒ サイズを指定する  GB

(論理ドライブ#2):

☒ 残り全領域を指定する

☐ サイズを指定する  GB

ディスクアレイ #2

未使用領域: GB

(論理ドライブ#3):

☐ 最大容量を指定する GB

☐ サイズを指定する  GB

(論理ドライブ#4):

☐ 残り全領域を指定する GB

☐ サイズを指定する  GB

※1TB=1024GBで計算します。

4 / 5 ページ

- ① 論理ドライブ#1 の[サイズを指定する]をチェックします。
- ② テキストボックスへ 100 を入力します。
- ③ 論理ドライブ#2 の[残り全領域を指定する]をチェックします。
- ④ [次へ]をクリックします。

(9) [完了]を選択してウィザードを終了します。

The screenshot shows a window titled "ウィザード" (Wizard) with a question mark icon. The text inside says: "RAIDの設定が完了しました。初期化で「BGI(バックグラウンドイニシャライズ)」となっているときは、初期化完了までディスクアレイに負荷がかかります。次の設定で問題なければ、[完了]をクリックしてウィザードを終了させてください。"

対象RAIDコントローラ	: LSI MegaRAID SAS 9264-8i
ディスクアレイ #1 : 初期化あり(BGI)	
RAIDレベル	: RAID5
物理デバイス	: SAS #01 136.2GB SAS #02 136.2GB SAS #03 136.2GB
論理ドライブ#1	: 100GB
論理ドライブ#2	: 172GB
未使用容量	: 136.2GB

5 / 5 ページ

Buttons: 戻る (Back), 完了 (Finish) - The "完了" button is circled in red.

### Step3 Windowsの設定

(1) 次の画面で「Windows の設定」カテゴリを確認すると、「！」表示となっているため、[設定]をクリックしてウィザードを起動します。

The screenshot shows the "EXPRESSBUILDER" setup window, Version 6.10-020.01(020). The title bar says "NEC EXPRESSBUILDER".

Text: セットアップについてのパラメータを設定します。[設定]をクリックすると、そのカテゴリのパラメータを変更できます。[保存する]をクリックすると、設定したパラメータを保存することができます。(注意)「！」の表示があるときは次へ進むことができません。[設定]をクリックして適切なパラメータを設定してください。

Buttons: デフォルト値について (About Default Values)

RAIDの設定 OK	ディスクアレイ1 RAID5(3台) 論理ドライブ1 (272GB) : システム/パーティション (40GB)	デフォルト 設定 スキップ
Windowsの設定 !	ユーザー情報 ネットワークの設定 コンポーネントの設定 デフォルト設定 デフォルト設定 デフォルト設定	デフォルト 設定 (circled in red)
アプリケーションの設定 OK	インストールするアプリケーション デフォルト設定	デフォルト 設定

Buttons: 戻る (Back), 次へ (Next), 保存する (Save), USB 取り外す (Remove USB)

(2) [次へ]を選択して次に進みます。

? ウィザード

次の流れに従って、Windowsインストールに必要なパラメータを設定します。  
[OS標準のインストーラを使う]を選択すると、このウィザードでパラメータ設定せずに、OS標準のインストーラを使って逐一パラメータ入力することになります。

1 / 8 ページ

次へ

キャンセル

(3) [次へ]を選択して次に進みます。

? ウィザード

[OS標準のインストーラを使う]を選択すると、OSメディアに格納されている標準のインストーラでインストールします。  
そのとき、ESMPROなどのアプリケーションはインストールされませんので、OSインストール後、個別にインストールしてください。  
[EXPRESSBUILDERを使ってセットアップする]を選択すると、アプリケーションも含めて一括してインストールできます。

基本設定

インストールするOS : Windows Server 2008 R2

☐ OSのインストーラを使用する

☒ リムーバブルメディアにOEMドライバをコピーする

☒ EXPRESSBUILDERを使用してセットアップする

エディション : Standard(フルインストール)

言語 : 日本語

タイムゾーン : (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京

2 / 8 ページ

戻る

次へ

キャンセル

(4) 次の画面では、今回の条件(1 台めの全領域)に合致するよう、以下の手順で設定します。

① [全領域を使用する]をチェックします。

② [次へ]をクリックします。

(5) 次の画面では、以下の手順でパスワードを設定します。

① [Administrator パスワード]へパスワードを入力します。

② [Administrator パスワードの確認]へ①で入力したパスワードを再度入力します。

③ [次へ]をクリックします。

(6) [次へ]を選択して次に進みます。

?

ウィザード

ネットワークプロトコルについて設定します。  
IPアドレスを指定するときは、[カスタム設定]から対象のネットワークを選択して、[詳細設定]をクリックしてください。

ネットワークプロトコル

☒ 標準設定

☐ カスタム設定

Standard Adapter - インターネットプロトコル (IPv4) 詳細設定

5 / 8 ページ

戻る

次へ

キャンセル

(7) [次へ]を選択して次に進みます。

?

ウィザード

参加するネットワークを指定します。  
ワークグループまたはドメインのいずれかを選択し、各項目を入力してください。

☒ ワークグループに参加する

☐ ドメインに参加する

ワークグループ名 : WORKGROUP

ドメイン名 :

アカウント名 :

パスワード :

パスワードの確認 :

6 / 8 ページ

戻る

次へ

キャンセル

(8) [次へ]を選択して次に進みます。

? ウィザード

Windowsコンポーネントについて設定します。  
有効化するWindowsの機能とサーバーの役割を選択してください。

サーバーの役割

- ☐ Webサーバー(IIS)
- ☐ DHCPサーバー
- ☐ DNSサーバー
- ☐ ファイルサービス
- ☐ 印刷とドキュメントサービス

Windowsの機能

- ☒ SNMPサービス [詳細設定](#)
- ☐ Simple TCP/IP Services
- ☐ WINSサーバー

7 / 8 ページ

戻る **次へ** キャンセル

(9) [完了]を選択してウィザードを終了します。

? ウィザード

Windowsインストールについての設定が完了しました。  
次の設定で問題なければ、[完了]をクリックしてウィザードを終了させてください。

インストールOS : Windows Server 2008 R2

(EXPRESSBUILDERを使用してセットアップする)

エディション : Standard(フルインストール)

言語 : 日本語

タイムゾーン : (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京

パーティション : 新規に作成する(100GB)

8 / 8 ページ

戻る **完了**



#### Step4 セットアップの実行

(1) 次の画面で[次へ]をクリックします。

NEC EXPRESSBUILDER  
Version 6.10-020.01(020)

セットアップについてのパラメータを設定します。  
[設定]をクリックすると、そのカテゴリのパラメータを変更できます。  
[保存する]をクリックすると、設定したパラメータを保存することができます。  
(注意)「！」の表示があるときは次へ進むことができません。[設定]をクリックして適切なパラメータを設定してください。

デフォルト値について

RAIDの設定 OK  
ディスクアレイ1  
RAID5(3台)  
論理ドライブ1 (100GB) : システムパーティション (100GB)  
論理ドライブ2 (172GB)

Windowsの設定 OK  
ユーザー情報 ネットワークの設定 コンポーネントの設定  
ユーザー設定 デフォルト設定 デフォルト設定

アプリケーションの設定 OK  
インストールするアプリケーション  
デフォルト設定

戻る 次へ 保存する USB 取り外す

(2) 次の画面で[実行する]をクリックします。

NEC EXPRESSBUILDER  
Version 6.10-020.01(020)

セットアップの準備が完了しました。  
[実行する]をクリックすると、セットアップが始まります。

実行するステップ

- RAIDの構築
- パーティションの作成
- ファイルのコピー
- メディアの入れ替え
- OS, アプリケーションのインストール

セットアップの概要

RAID構築  
構築あり  
※データはクリアされます。

パーティション  
新規で作成する

インストールOS  
Windows Server 2008 R2 Standard(フルインストール)

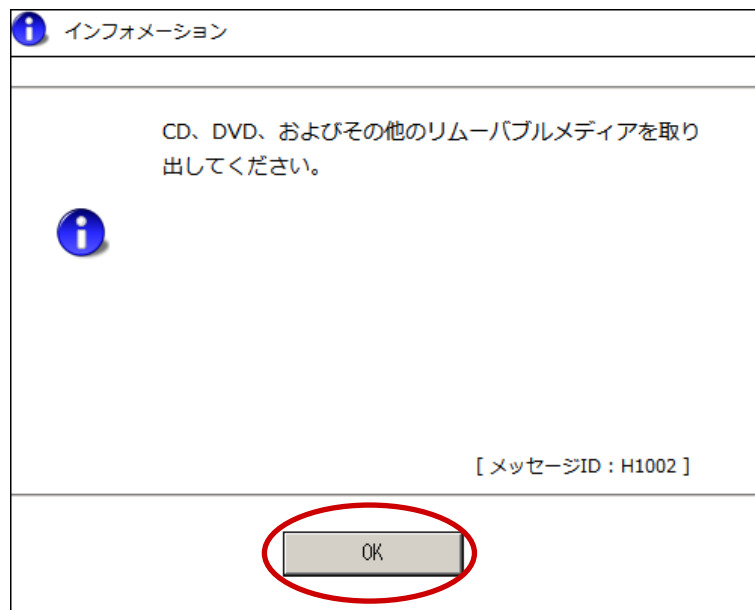
インストールするアプリケーション  
ESMPRO/ServerAgent  
エクスプレス通報サービス  
エクスプレス通報サービス(HTTPS)  
NECからのお知らせ

戻る 実行する USB 取り外す

セットアップが自動的に進みます。そのまま少しお待ちください（3分程度）。

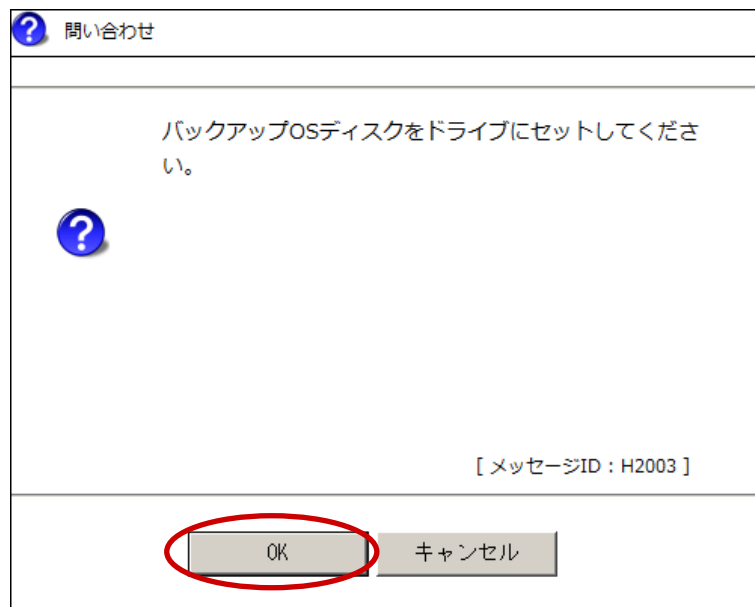
(3) セットアップが進むと、次のようなダイアログボックスが現れます。

サーバにセットした EXPRESSBUILDER を取り出し、[OK]をクリックしてください。



(4) 次のようなダイアログボックスが現れます。

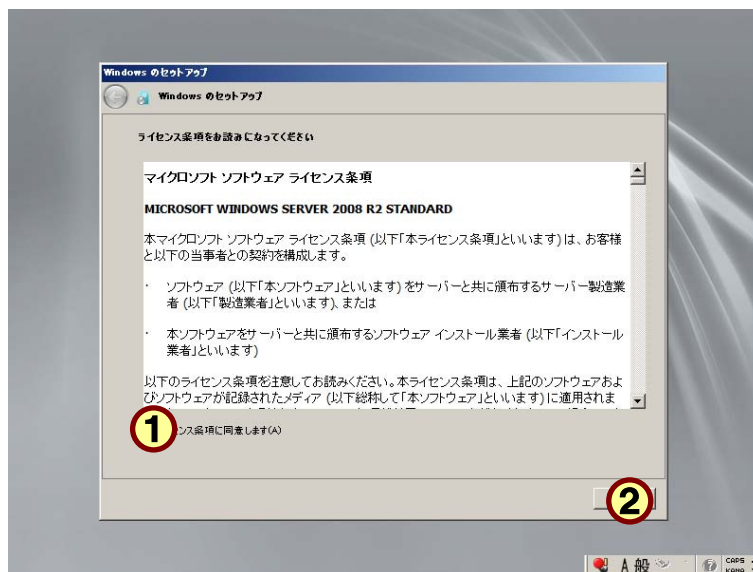
Windows Server 2008 R2 の「バックアップ DVD-ROM」をサーバにセットし、[OK]をクリックしてください。



以降、再びセットアップが自動的に進みます。そのまましばらくお待ちください（50 分程度）。

(5) 次のような確認画面が現れます。

内容を確認の上、次へ進みます。



① [ライセンス条項に同意します]をチェックします。

② [開始]をクリックします。

(6) ログオン画面が現れます。

Step3 で設定したパスワードを使ってログオンします。



(7) 終了画面が現れます。



以上で、EXPRESSBUILDER を使ったセットアップは完了です。

## 6. EXPRESSBUILDERの使用例(バージョン 6、OS標準のインストーラを使ったセットアップ)

EXPRESSBUILDER バージョン 6 を使ってサーバをセットアップしたときの例について説明します。

ここでは、以下の条件でセットアップすることを想定します。

使用する EXPRESSBUILDER	: Version 6.10-020.01
対象マシン	: Express5800/GT110d-S
ハードディスクドライブ	: 2.5 型 SAS HDD 3 台
RAID コントローラ	: N8103-129
RAID 構成	: デフォルト値を使う
論理ドライブ構成	: デフォルト値を使う
インストール OS	: Windows Server 2008 R2
インストール方法	: OS 標準のインストーラを使う

### Step1 EXPRESSBUILDERの起動

「5. EXPRESSBUILDER の使用例」の Step1 に従って EXPRESSBUILDER を起動します。

### Step2 Windowsの設定

- (1) トップメニューで、[セットアップする]をチェックし、[次へ]をクリックします。
- (2) 次の画面では、今回インストールする OS(Windows Server 2008 R2)がデフォルトとして設定済みのため、そのまま[次へ]をクリックします。



(3) 次の画面では、以下のように確認していきます。

- ① 「RAID の設定」は"OK"でありデフォルト値が設定済みのため、そのままの設定とします。
- ② 「Windows の設定」は"!"となっているため、設定する必要があることを意味します。
- ③ [設定]をクリックします。

(4) [次へ]を選択して次に進みます。

(5) 次の画面では、以下のように操作します。

ウィザード

[OS標準のインストーラを使う]を選択すると、OSメディアに格納されている標準のインストーラでインストールします。  
そのとき、ESMPROなどのアプリケーションはインストールされませんので、OSインストール後、個別にインストールしてください。  
[EXPRESSBUILDERを使ってセットアップする]を選択すると、アプリケーションも含めて一括してインストールできます。

基本設定

インストールするOS : Windows Server 2008 R2

① OS標準のインストーラを使う  
② リムーバブルメディアにOEMドライバをコピーする  
③ EXPRESSBUILDERを使ってセットアップする

エディション : Standard(フルインストール)  
言語 : 日本語  
タイムゾーン : (UTC+09:00) 大阪、札幌、東京

2 / 8 ページ

戻る 次へ キャンセル

- ① [OS 標準のインストーラを使う]をチェックします。
- ② [リムーバブルメディアにOEM ドライバをコピーする]のチェックは外します。
- ③ [次へ]をクリックします。

(6) [完了]を選択してウィザードを終了します。

ウィザード

Windowsインストールについての設定が完了しました。  
次の設定で問題なければ、[完了]をクリックしてウィザードを終了させてください。

インストールOS : Windows Server 2008 R2

(OS標準のインストーラを使う)

OEMドライバのコピー : なし

8 / 8 ページ

戻る 完了

### Step3 セットアップの実行

(1) 次の画面で[次へ]をクリックします。

NEC EXPRESSBUILDER  
Version 6.10-020.01(020)

セットアップについてのパラメータを設定します。  
[設定]をクリックすると、そのカテゴリのパラメータを変更できます。  
[保存する]をクリックすると、設定したパラメータを保存することができます。  
(注意)「!!」の表示があるときは次へ進むことができません。[設定]をクリックして適切なパラメータを設定してください。

デフォルト値について

RAIDの設定 OK  
ディスクアレイ1  
RAID1(2台)  
論理ドライブ1 (136GB)  
デフォルト  
設定  
スキップ

Windowsの設定 Skip  
ユーザー情報 ネットワークの設定 コンポーネントの設定  
デフォルト設定 デフォルト設定 デフォルト設定  
デフォルト  
設定

アプリケーションの設定 Skip  
インストールするアプリケーション  
デフォルト設定  
デフォルト  
設定

戻る 次へ 保存する USB 取り外す

(2) 次の画面で[実行する]をクリックします。

NEC EXPRESSBUILDER  
Version 6.10-020.01(020)

セットアップの準備が完了しました。  
[実行する]をクリックすると、セットアップが始まります。

実行するステップ

- RAIDの構築
- メディアの入れ替え
- OSのインストール

セットアップの概要

RAID構築  
構築あり  
※データはクリアされます。

インストールOS  
Windows Server 2008 R2

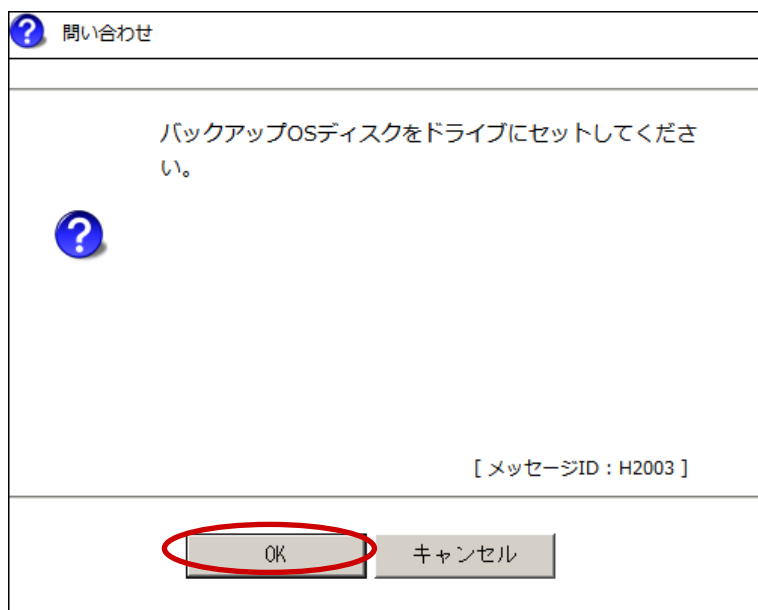
OEMドライバのコピー  
なし

戻る 実行する USB 取り外す

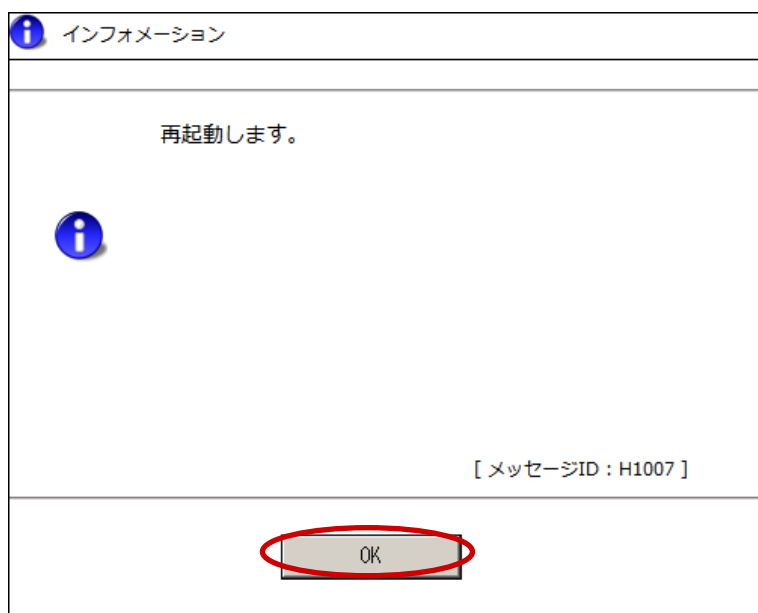


(3) セットアップが進むと、次のようなダイアログボックスが現れます。

Windows Server 2008 R2 の「バックアップ DVD-ROM」に入れ替えて[OK]をクリックします。

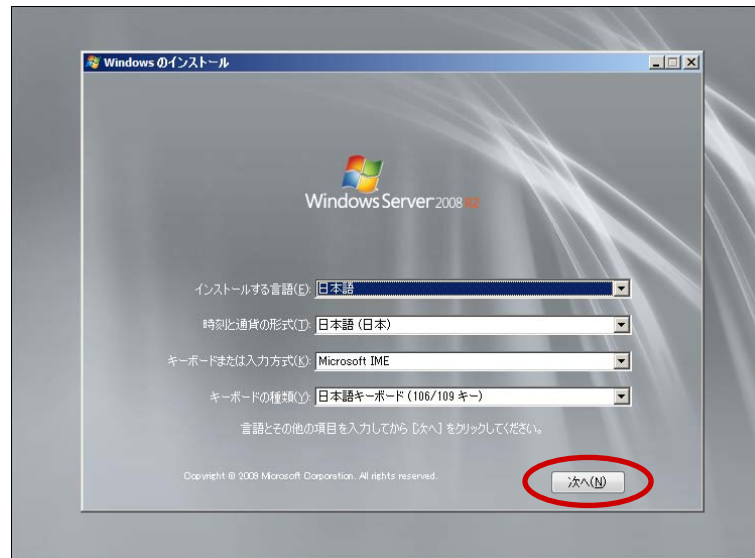


(4) 次の画面で[OK]をクリックします。



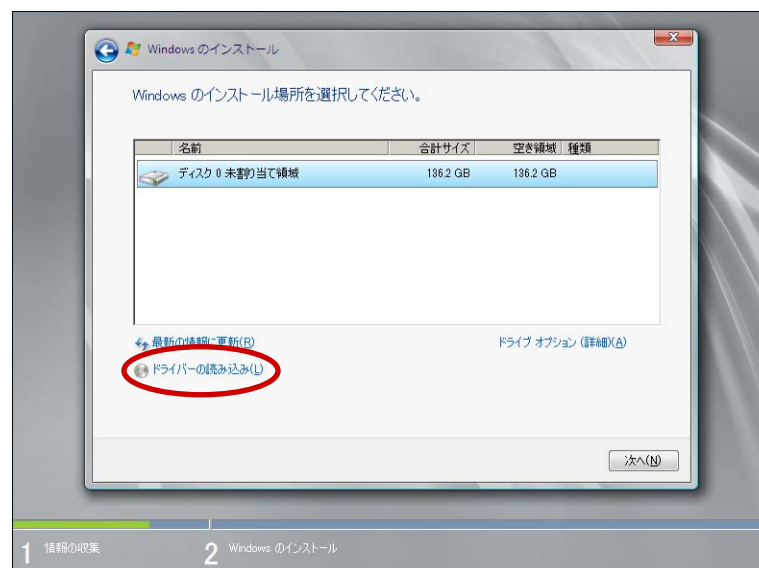
リブートしてバックアップ DVD-ROM から起動しようとします。そのまま少しお待ちください。

(5) Windows 標準のインストーラが起動しますので、[次へ]をクリックしてセットアップを進めます。

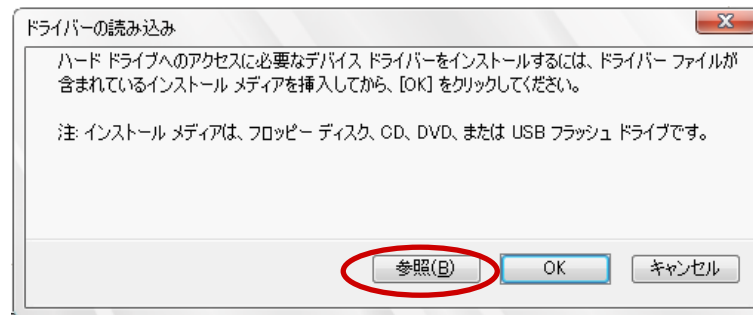


(6) セットアップを進めると、インストール先の設定となります。

メディアを EXPRESSBUILDER に入れ替えて[ドライバーの読み込み]をクリックします。

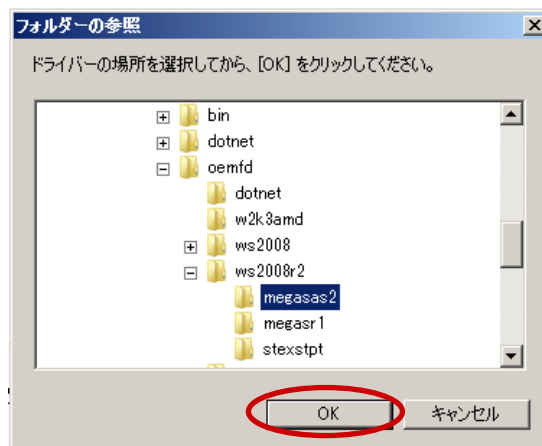


(7) 次のようなダイアログボックスが現れます。[参照]をクリックしてください。

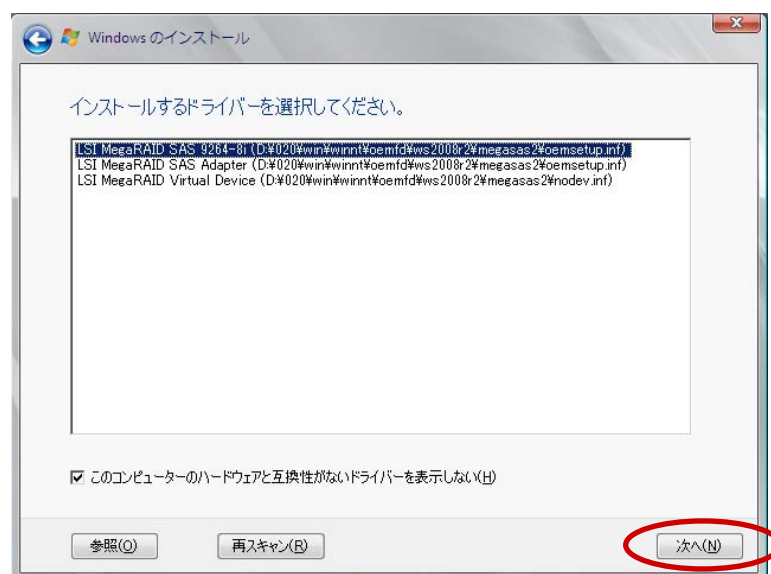


(8) ファイルチューザーが現れます。N8103-129 を使っていますので、EXPRESSBUILDER の次のフォルダを選択します。

¥020¥win¥winnt¥oemfd¥ws2008r2¥megasas2



(9) 次のような画面となります。[LSI MegaRAID SAS 9264-8i]を選択して[次へ]をクリックします。



(10) 次の画面では以下のように操作します。

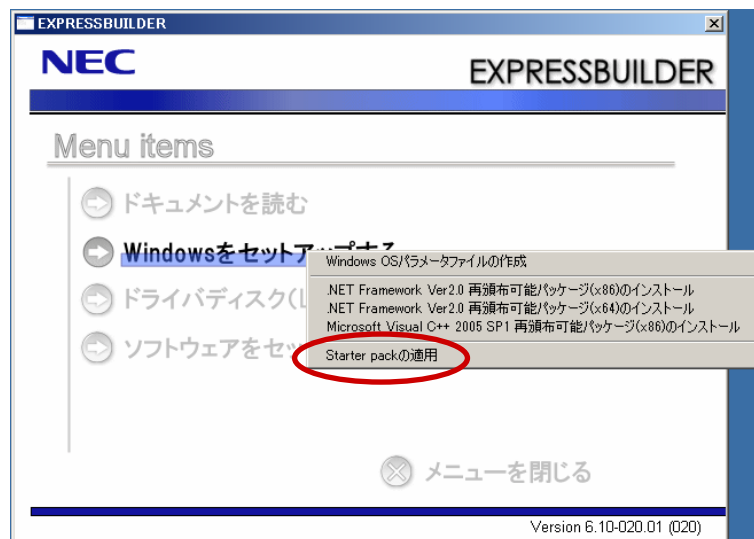


- ① [最新の情報に更新]をクリックします。  
→ 「このディスクに Windows をインストールすることはできません」の警告メッセージが消えます。
- ② [ドライブオプション(詳細)]をクリックします。  
→ パーティションの設定などができますので適切な値を設定します。
- ③ 設定が終了しましたら、[次へ]をクリックします。

(11) セットアップが進むと、次のようなログオン画面となります。画面の指示に従って Administrator でログオンします。

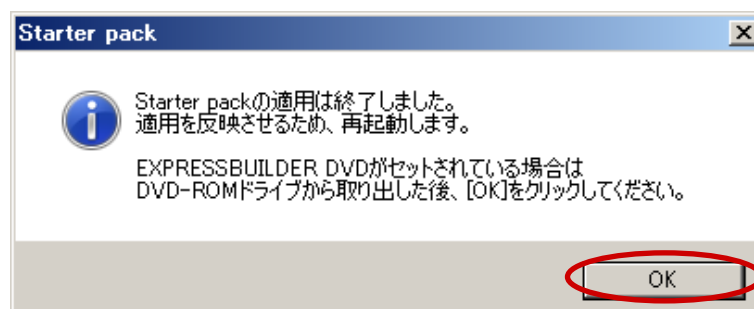


- (12) ログオン完了後、メディアを EXPRESSBUILDER に入れ替えます。  
オートラン機能が働き、オートランメニューが起動します。



メニューから、[Windows をセットアップする] - [Starter pack の適用]をクリックします。

- (13) 画面の指示に従って Starter pack を適用します。次の画面まで進みしたら、EXPRESSBUILDER を取り出して[OK]をクリックします。



以上で、OS 標準のインストーラを使ったセットアップは完了です。

## 付録

### ◎標準添付の EXPRESSBUILDER(DVD)と EXPRESSBUILDER 組込みキットの機能比較

	EXPRESSBUILDER(DVD)	EXPRESSBUILDER 組込みキット
<b>セットアップ</b>		
Windows のセットアップ	○	○
Starter pack の適用	○	○
Linux シームレスセットアップ *1	○	○
Linux マニュアルセットアップ	○	-
<b>バンドルソフトウェア</b>		
ESMPRO/ServerAgent のインストール	○	○
エクスプレス通報サービスのインストール	○	○
ESMPRO/ServerManager のインストール	○	-
ESMPRO/ServerAgent Extensiton のインストール	○	-
ExpressUpdateAgent のインストール	○	-
Universal RAID Utility のインストール	○	○
<b>その他</b>		
ドキュメント(ユーザズガイド)の閲覧	○	-
POST からの起動(DVD ドライブがなくとも起動可能)	-	○
システム診断(T&D)の実行	○	○

※○対応 -非対応

\*1 別途サービスセットの購入が必要です。